

まちのトピックス



from HIGASHIYAMA 東山

### 川面に響く癒しの調べ

げいび溪船上十六夜コンサート

幻想的な雰囲気の中行われた船上コンサート  
狛鼻溪に初秋の訪れを告げる船上十六夜コンサートは9月5、6日の両日、名勝狛鼻溪で行われ、県内外から多くの聴衆が訪れました。ソプラノ歌手の山田英津子さん、ハーブ奏者の大村典子さん、チェロ奏者の津森奈保子さんの3人が出演。コンサートは「アルテミスのささやき」と題して行われ、「千の風になって」「アベマリア」「星に願いを」など10曲が披露されました。  
静かに進む船上にはかがり火がともされ、渓谷や水面が幻想的に照らし出される中、歌声とハーブ、チェロが織り成す繊細な癒しの調べに、訪れた船上の聴衆は酔いしれました。



燃えさかる高温の炉から鉄が誕生  
左 協力がしながら大量の木炭を割りました

### 日本古来の“たたら”を学ぶ

内野小学校でふるさと学習

内野小学校の3年生以上の児童13人は8月30日、上内野の「砂鉄川たたら製鉄学習館」で製鉄作業に取り組みました。  
砂鉄川の源流部でもある大原内野地区では、良質な砂鉄に恵まれ、製鉄の燃料となる木炭の生産も豊富だったことから、明治初期まで「たたら製鉄」が盛んに行われていました。同小では総合的な学習の一環として平成10年から、たたら製鉄学習館を運営する「ホッパの会」の協力を得て、地域に伝わる鉄の歴史について学んでいます。  
児童らは、砂鉄川から砂鉄を採取し、粘土から高さ1.2mの円筒形の大きな炉を作ったり、燃料となる木炭の炭焼き作業を行ったりと、6月から準備を進めてきました。当日は、児童一人一人が役割分担と活動目標を確認した後、午前10時に製鉄体験を開始しました。製鉄には大量の木炭が燃料として用いられることから、子どもたちは協力し合って木炭をハンマーなどで細かく割りました。そして、熱風が吹き上がり高温となった炉の中に、10分ごとに砂鉄と木炭を汗だくになりながら投入しました。  
体験を開始してから6時間後、36℃の砂鉄から約13℃の鉄の塊を採取することができました。児童らは「大量の炭割りが大変だった」「砂鉄と炭を炉に入れる時が熱かった」と昔の鉄作りの苦勞を肌で感じながら、ふるさとの歴史や文化について理解を深めた様子でした。

### 旬の地元食材でいきいき

「地産地消」調理実習

食生活バランスを学び、地場産の旬の食材を使って食卓を豊かにしようと、9月20日、川崎公民館川の大森校講座「いきいきシニアライフコース」の受講生15人が調理実習を行いました。  
県栄養士の小山静子さんを講師に、3班に分かれさつま芋ごはん、サンマのそば巻、レンコンと豆腐入り肉団子、カボチャプリンなど6品を調理しました。  
普段も料理をするという伊藤英宏さん＝薄衣＝は「下ごしらえや手順が細かくて男の料理としては大変だな」と苦笑しながらも、熱心に取り組んでいました。



from KAWASAKI 川崎

手ほどきを受けながら新メニューを習得する参加者

from ICHINOSEKI 一関



試合終了後、固く握手を交わし健闘をたたえあう選手たち

### 広げようふれあいの輪

みちのくふれあいカップin一関

第15回みちのくふれあいカップin一関は9月2日、一関運動公園テニスコートを会場に行われました。大会は健常者と車いすの選手がペアを組んで競技し、テニスを通してふれあいの輪を深めることを目的に開催され、今年は13組が参加しました。  
選手たちは好プレーが出るたびにハイタッチをして喜び合い、ミスをしてがっかりしているペアには「ドンマイ」「大丈夫」と笑顔で声掛け。車いすの選手はボールがくると素早く車いすを動かしてコート内を駆け回り、家族やほかの選手たちからの応援を背に、さわやかな汗を流していました。

### 「原点はまちを語れること」

地域づくり講演会

室根青年連絡会(小山雅也会長)は9月1日、青年が主役となる地域づくりの糸口を探ろうと地域づくり講演会を催しました。市の「若者が主役の地域おこし事業」の助成を受けて実施したもので、約70人が参加しました。  
講師の愛媛大学非常勤講師、若松進一さんは「自分のまちを語れることが地域づくりの原点」と、これまでの具体的な取り組みを交え、「その地域に生き、どう楽しめるか。新しいことを創造することも文化」と力強く話し、青年への期待とエールを送って締めくくりました。翌日は、一関地方の食材を使用した串焼きイベントを開催。約50人が参加し地域づくりの新たな一歩を踏み出しました。



from MURONE 室根

若松さんの話に盛り上がる会場(右は講師の若松進一さん)

from HANAIZUMI 花泉



威風堂々とした時代絵巻が観客を魅了しました

### 威風堂々荘厳に伝統守る

金沢八幡神社大名行列

金沢八幡神社の大名行列は9月16日、金沢新町から本町の県道を会場に行われました。  
時折青空も顔をのぞかせたこの日、ほら貝を吹き鳴らす露払いに続き、鉄砲隊など総勢160人あまりが練り歩き、八幡神社遷宮の故事に倣った荘厳な歴史絵巻を再現していました。  
行列に先立ち行われた、金沢小児童による鶏舞や太鼓の競演も祭りに花を添え、沿道に詰め掛けた観客たちもみな、250年の伝統を誇る時代絵巻をカメラに収めていました。

### 地域を自ら守るために

中日向自治会で防災資器材を購入

中日向自治会(千田学会長、96世帯)は、(財)自治総合センターの「宝くじの普及広報事業」コミュニティ助成事業を活用し、自主防災活動用の資器材と収納倉庫を購入しました。  
同自治会は、「自分たちの地域は自分たちで守る」の理念から平成10年、「中日向自治会助け合い総合計画」を策定。毎年、自主防災訓練を実施するなど災害に強い地域づくりを行っています。防災資器材の導入により、住民への情報伝達、避難所の電源確保、炊き出しなど災害時や有事に備えた避難所としての機能が整えられました。



from SENMAYA 千帆

炊き出し用の炊事用品、スピーカー、照明などが整備されました